我孫子市布佐中学校区の学校の在り方に関する提言書

令和６年２月 13 日
我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会

目次

１　概説 1
２　はじめに 1
（１）　我孫子市の現状 1
（２）　児童生徒数の推移 2
（３）　学校施設の現状 2
（４）　布佐中学校区の教育の現状 2
３　検討内容のとりまとめ 3
（１）　①　３校とも規模を適正化し現在地で建て替える 4
（２）　②　隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模を適正化し現在地で建て替える 4
（３）　③　３校を一体型小中一貫校に建て替える 5
（４）　検討内容のまとめ 5
４　おわりに 5
５　検討委員会概略 6
（１）　委員名簿 6
（２）　各回概要 7
（３）　布佐中学校区検討の経緯 8

１　概説

校舎の老朽化や児童生徒数の減少等の課題に対し、今後の布佐中学校区の児童生徒にとって最適な学習環境について検討するため「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会」を設置しました。本検討委員会では、現状の教育課題を解消し小中一貫教育をより一層推進していくために、３つのパターンの施設形態を立案し比較検討しました。

本提言書は、３つのパターンそれぞれにメリットデメリットがあるものの「３校を一体型小中一貫校に建て替える」方向性がより望ましいと考え、これを提言するものです。

２　はじめに

変化の激しい現代社会において、子どもたちの「生きる力」を育む学校教育への期待と重要性は一層増しています。技術の進歩は目まぐるしく、簡単に世界中の情報に触れられるようになりましたが、大量の情報の中から必要なものを取捨選択し、自らの知識や経験を基に主体的に活用して「何ができるか」が問われるようになっています。また、世界中の多様な価値観との交流や異文化理解が求められる一方、少子化により地域や学校の児童生徒数が減少し、子どもたちに最も近い場で多様なものの見方や考え方に触れることが難しくなるなど、学びの多様性の在り方が学校教育の課題ともなっています。

我孫子市では、子どもの学びの保障と環境変化に対応するため、「我孫子市の児童生徒数の現状と今後」及び「国の基準」を基に「学校適正規模」を設定しました。布佐中学校区は、この適正規模基準において「速やかに検討する」段階に入りました。

そこで、布佐中学校区の子どもたちの最適な学習環境の検討のため、令和４年７月に「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会」が組織されました。本検討委員会では「布佐中学校区の学校の規模及び配置の適正化に関すること」「布佐中学校区の学校の小中一貫教育の推進に関すること」について議論を重ね、この度、布佐中学校区の学校の在り方の方向性に関する提言を取りまとめるに至りました。

この提言書が、布佐中学校区の子どもたちにとって最適な学習環境の実現に貢献し、我孫子市の更なる教育の充実を図るための指針となることを祈念します。

（１）　我孫子市の現状

我孫子市は、千葉県の北西部、都心から 30km 圏に位置しています。面積 43.15 ㎢の市域は、南北に約４km、東西に約 14km と細長く、標高 20m前後の台地と周囲の低地で形づくられた馬の背状の地形をなしています。昭和 30 年４月に我孫子町、布佐町、湖北村が合併して我孫子町となり、昭和 45 年７月に市制をしきました。

北側に利根川を、南側に手賀沼を臨む豊かな水と緑に恵まれ、都心からも常磐線で35 分の近距離にあることから、首都圏へ通勤する人々の住宅地としての役割が大きくなっています。

また、人口の推移では、平成 23 年の 136,217 人をピークに減少局面に入り、令和５年４月１日現在では 130,959 人となりました。令和５年の人口は、ピーク時の平成 23 年と比べて、5,258 人（3.9%）減少しています。平成 22 年以降の年齢別人口をみると、65 歳以上の高齢者人口は増加の一途をたどる一方で、生産年齢人口及び年少人口は減少を続けています。

（２）　児童生徒数の推移

我孫子市には小学校 13 校、中学校６校があり、令和５年５月１日現在 8,445 人の児童生徒が就学しています。市内の児童生徒数は、昭和 45 年の市制施行以来、増加の一途をたどり、昭和 58 年度に 19,253 人でピークを迎えました。その後減少に転じ、平成 14 年度にはピーク時の約半数の 9,568 人まで減少しました。その後、市内西側地区の大規模集合住宅の建設により、一時的に増加に転じ、平成 23 年に 10,627 人まで増加しましたが、その後再び減少に転じ、現在に至っています。今後も市内の児童生徒数は、減少傾向が続くことが予想されています。

（３）　学校施設の現状

令和２年３月策定の「我孫子市学校施設個別施設計画」によると、市内の学校施設（計 145 棟、延床面積 13.7 万㎡）のうち、築 30 年以上の建物が 91%（127 棟、12.5 万㎡）であり、老朽化が進んでいることが分かります。特に建設が集中しているのが昭和 50 年から昭和 56 年までで、この７年間に延 101 棟 8.3 万㎡を整備しています。今後、これらが一斉に改築、改修の時期を迎えることになるため、費用の平準化を検討する必要があります。

布佐中学校区の建築年数は、布佐小学校が昭和 50 年（令和６年現在で築 49 年）、布佐南小学校が昭和 58 年（同築 41 年）、布佐中学校が昭和 55 年（同築 44 年）となっており、「躯体以外の劣化状況」として「広範囲に劣化」と評価されている項目が多く、「早急に対応する必要がある」となっている項目も見受けられます。

（４）　布佐中学校区の教育の現状

市内東側にある布佐地区には布佐小学校、布佐南小学校及び布佐中学校があり、２つの小学校から中学校へ進学しています。布佐小学校及び布佐南小学校は成田線を挟んで南北に学区が分かれており、北側の布佐小学校区は古くから町が発展していた地区、南側の布佐南小学校区は布佐平和台を中心とした比較的新しい住宅が並ぶ地区です。

我孫子市では小学校から中学校への義務教育９年間の学びを一貫して行う「小中一貫教育」を全市的に推進しており、とりわけ布佐中学校区は市内で最も早い平成 26 年度から先進的に小中一貫教育に取り組んでいます。

布佐中学校区では小学校と中学校の交流や地域学校協働活動が盛んであり、小中共同で開発した「布佐カリキュラム」による特色ある学習が展開されています。

また、我孫子市では児童生徒数の減少や学校規模の不均衡等の現状を鑑みて、学校適正規模を設定しています。基準としては小学校が各学年２～４学級、中学校が各学年３～８学級としていますが、布佐小学校と布佐南小学校は全学年１学級、布佐中学校は全学年２学級であり、いずれも基準を下回っています。このため、布佐中学校区は適正規模について検討段階にあるものとして位置付けられています。

その中で次のような教育課題があり、これらを解決するよりよい学習環境を検討する必要が出てきました。

ア　校舎の老朽化により建替え等の必要がある。

→現行校舎の規模は昭和 50 年代のものであり、現在の児童生徒数や今後の少子化に適した規模にする必要がある。また、現在校舎の位置はハザードマップで浸水地区になっているものがあり、建替え時の立地に影響がある。

イ　児童生徒数の減少により我孫子市で定める適正規模を下回り、布佐小学校、布佐南小学校ともに全学年単学級になっている。

→単学級の場合、クラス替えがないため人間関係が固定化しやすく、人間関係でつまずいた際にとれる対策に限りがある。また、教員配置数が少なく、多くの目で児童生徒を見守ることが難しい。学習準備等担任が一人で行うことになるため、学年で相談や分担ができず、負担が大きい。

ウ　小中一貫教育の推進として布佐小学校、布佐南小学校及び布佐中学校の合同行事などを行っているが、物理的に校舎が離れていることにより制約や限界がある。

→合同行事の日程調整が必要となり、児童生徒の移動に時間がかかる。教員同士の交流にも時間を要し、小中学校間の情報共有が容易ではない。

３　検討内容のとりまとめ

学校の在り方については、子どもたちの教育環境を最優先に考えること、学校と地域との連携を考えること、将来の児童生徒数推計を見据えて考えることを重点においています。

検討に際しては、前述アからウまでの教育課題を解決するために「小中一貫教育の推進」と「減少する児童生徒数に適正化した新しい学校施設」を考えていく必要がありま

す。そこで、本検討委員会では検討するべき学校施設として次の３つのパターンに大別し、それぞれのメリットデメリットについて比較検討しました。

① ３校とも規模を適正化し現在地で建て替える（各校が分離したまま、現状と同様に小中一貫教育を推進する）

② 隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模を適正化し現在地で建て替える（布佐小学校と布佐中学校が一つの校舎になり、布佐南小学校は分離した状態で小中一貫教育を推進する）

③ ３校を一体型小中一貫校に建て替える（３校全てが一つの校舎になる）

これら３つのパターンを比較検討するため、検討項目の整理を行い、学校に関わる人々からみた視点として「児童生徒」、「教職員」、「保護者」、「地域」及び「その他」と５つの視点に分け、さらに各視点内に小項目を設定してそれぞれのメリットデメリットを確認しました。この比較検討の内容については、別紙資料「検討視点と施設形態のメリットデメリット表」を確認ください。

詳細は資料によりますが、３つのパターンそれぞれについてまとめると、次のとおりです。

（１） ① ３校とも規模を適正化し現在地で建て替える

メリットとして、従来から環境を変えることなく学ぶことができること、通学距離が均等化されていることなどが挙げられます。

デメリットとして、現在の小中一貫教育の推進に係る諸課題が残ったままであることが挙げられます。

そのため、今後の小中一貫教育の推進については、各校の連携をより一層密にし、今以上の工夫が求められます。

（２） ② 隣接する布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は規模を適正化し現在地で建て替える

メリットとして、布佐小学校と布佐中学校の一体型一貫校では９年間をとおした学習指導や異学年交流などが行えること、小学校教員と中学校教員の情報交換が行いやすくなることなどが挙げられます。

デメリットとして、分離のままである布佐南小学校では、現在の小中一貫教育の推進に係る諸課題が残ったままであること、布佐南小学校出身者が中学校段階から合流した際に人間関係や生活環境の変化で問題が生じる可能性があることが挙げられます。

そのため、特に分離状態の布佐南小学校との連携を密にし、一体型一貫校の児童と格差が生じないような工夫や、地域への丁寧な説明と対応などが求められます。

（３）　③　３校を一体型小中一貫校に建て替える

メリットとして、小学校段階から２クラスになることで人間関係の更新や多様な価値観に触れる機会が増えること、９年間をとおした学習指導や生徒理解がしやすくなること、４－３－２制など特色ある教育課程を組めるようになることが挙げられます。

デメリットとして、通学距離が延びる場合があること、特別教室や校庭の共有に調整が必要になること、学校配置の変更により地域防災に影響があることなどが挙げられます。

そのため、スクールバス運行による通学のサポートや、地域への丁寧な説明と対応などが求められます。

（４）　検討内容のまとめ

３つのパターンについてはそれぞれメリットデメリットがあり、一意に決定できるものではありません。しかし、本検討委員会では、今後の布佐中学校区の小中一貫教育をより一層推進し、子どもたちの学習、生活環境をより良いものとするため「③　３校を一体型小中一貫校に建て替える」とするのが良いと考え、本提言とします。

なお、一体型となる新校舎の立地に関しては、台風や大雨、地震による土砂災害などの影響を鑑み、市の定めるハザードマップや防災計画を参考にして、子どもたちにとっての安全を第一に考えた災害に強い学校となるよう要望します。

４　おわりに

本検討委員会では２年にわたり、布佐中学校区の学校の在り方について、学校の規模及び配置の適正化に関すること、小中一貫教育の推進に関することを大きな柱として、３つのパターンを比較検討し、それぞれメリットデメリットについて検討を重ねてきました。この検討の結果、「一体型小中一貫校」の方針を提言する運びとなりましたが、一体型小中一貫校の新設にはまだまだ課題も多く残っています。通学にスクールバスを運行するのであれば、その運行範囲やスケジュール等を検討する必要があります。学校を一つにして新設するのであれば、残った現校舎はどうするのか、有事の際の避難所はどうなるのかなど地域コミュニティや防災面での問題が新たに生じます。

我孫子市及び我孫子市教育委員会においては、本提言を踏まえ、布佐中学校区の子どもたちにとってよりよい学習環境となるよう進めていくと共に、保護者や地域の願いを汲み取った丁寧な対応をしていただくようお願いします。

５　検討委員会概略

（１）　委員名簿

（敬称略）

選 出 区 分	氏　名	備　考
布佐中学校区学校長	小林　道治	
布佐中学校区学校長	佐々木　祐子	令和４年度　谷口　育男
布佐中学校区学校長	鈴木　伸樹	令和４年度　戸塚　美由紀
布佐中学校区の学校運営協議会代表	鈴木　治男	
布佐中学校区の学校運営協議会代表	駒場　アサ子	
布佐中学校区の学校運営協議会代表	篠﨑　和彦	副委員長
児童又は生徒の保護者代表	志賀　和仁	
児童又は生徒の保護者代表	落合　妥香	
児童又は生徒の保護者代表	比江嶋　眞友巳	
まちづくり協議会代表	松島　紀	
まちづくり協議会代表	山本　英雄	
学識経験者	田中　聡	委員長

（２）　各回概要

実　施　日	回　数	内　容
令和４年７月 25 日	令和４年度第１回	・検討委員会趣旨説明 ・令和２～３年度の経緯説明 ・出席委員数 12 名
11 月 18 日	（先進事例視察）	・市川市立塩浜学園視察 ・出席委員数８名
12 月 19 日	第２回	・視察報告 ・施設形態と小中一貫教育について説明 ・出席委員数 10 名
令和５年２月 24 日	（現状視察）	・布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の現状視察 ・出席委員数 10 名
３月 22 日	第３回	・視察報告 ・検討視点、項目の整理 ・出席委員数 11 名
５月 29 日	令和５年度第１回	・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（児童生徒視点） ・出席委員数 10 名
７月 10 日	第２回	・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（教職員、保護者・地域視点） ・出席委員数 11 人
９月 12 日	第３回	・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（その他視点） ・出席委員数 12 名
11 月 13 日	第４回	・検討視点と施設形態のメリットデメリットについて（最終確認） ・提言書素案確認 ・出席委員数 11 名
令和６年１月 22 日	第５回	・提言書最終確認 ・出席委員数 12 名
２月 13 日	提言書提出	・委員長、副委員長から我孫子市教育委員会へ提言書を提出

（３）　布佐中学校区の学校の在り方検討の経緯

○令和２年度

・布佐中学校区の適正規模と今後の在り方について、保護者、地域住民、学校関係者に対しアンケートを実施（実施期間:令和２年 12 月～令和３年１月）。
※新型コロナウイルス感染症拡大のため、説明会の開催ができず、アンケートのみ先行実施となった。

○令和３年度

・布佐中学校区の適正規模と学校の在り方について、保護者、地域住民の理解を深めるとともに、率直な意見を聴く場として説明会を開催。説明会では、学校施設個別施設計画や学校適正規模、小中一貫教育等について説明とアンケート報告、検討委員会の設置について説明、質疑応答など。

回　数	対 象 者	日　時	会　場
①	布佐小学校 保護者	７月 17 日（土） 10:00～11:30	布佐小学校 体育館
②	布佐中学校 保護者	７月 17 日（土） 13:30～15:00	布佐中学校 多目的室
③	布佐南小学校 保護者	７月 18 日（日） 10:00～11:30	布佐南小学校 体育館
④	布佐小学校区 地域住民	11 月 27 日（土） 10:00～11:30	布佐小学校 体育館
⑤	布佐南小学校区 地域住民	11 月 27 日（土） 13:30～15:00	布佐南小学校 体育館

・令和４年３月の定例教育委員会で「我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会設置要綱」が承認、制定。

○令和４年度

・各団体に検討委員会委員の推薦を依頼し、委員選出。６月の定例教育委員会にて委員委嘱を承認。

・第１～３回会議及び市川市立塩浜学園、布佐中学校区の３校の視察を実施。

○令和５年度

・校長人事により、委員２名の交代

・第１回～第５回会議を実施

・本提言書の提出

資料

・我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会設置要綱
・「検討視点と施設形態のメリットデメリット」表
・児童生徒数推移、児童生徒数の将来推計
・令和５年度　布佐中学校区　小中一貫教育グランドデザイン
・令和２年度実施　布佐中学校区「学校の適正規模に係るアンケート」集計結果

我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会設置要綱

（設置）

第１条　我孫子市立小学校設置条例（昭和３９年条例第９号）第２条に規定する小学校及び我孫子市立中学校設置条例（昭和３９年条例第１０号）第２条に規定する中学校（以下「学校」という。）における児童生徒数の推移及び学校施設の老朽化を踏まえ、我孫子市立小学校及び中学校通学区域に関する規則（昭和５１年教育委員会規則第４号）別表第１第２号の表に掲げる通学区域のうち、布佐中学校の通学区域（以下「布佐中学校区」という。）にある学校の在り方について、学校の適正規模と照らし合わせて検討するため、我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（任務）

第２条　委員会の任務は、次に掲げる事項について検討し、その結果を教育委員会に報告することとする。

（１）　布佐中学校区の学校の規模及び配置の適正化に関すること。

（２）　布佐中学校区の学校の小中一貫教育の推進に関すること。

（３）　前各号に掲げるもののほか、布佐中学校区の学校の在り方に必要な事項に関すること。

（組織）

第３条　委員会の委員（以下「委員」という。）は、１２人以内とし、次に掲げる者のうちから、教育委員会が委嘱し、又は任命する。

（１）　布佐中学校区の学校長

（２）　布佐中学校区の学校運営協議会代表

（３）　布佐中学校区の学校に在籍する児童又は生徒の保護者代表

（４）　布佐地区のまちづくり協議会代表

（５）　学識経験者

（６）　その他教育委員会が特に必要と認める者

（任期）

第４条　委員の任期は、２年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠

委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置き、委員の互選により、選出する。

２　委員長は、会務を取りまとめ、委員会を代表する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。

２　委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

３　委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（報償）

第７条　委員（第３条第１号に該当する者を除く）が会議に出席したときの報償は、１回につき３，５００円を支払うものとする。

（庶務）

第８条　委員会の庶務は、教育総務部学校教育課が処理する。

（補則）

第９条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附　則

この告示は、令和４年４月１日から施行する。

【布佐中学校区の在り方検討委員会　資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて

〈児童生徒〉

視点	項目	①　３校とも施設規模を適正化し現在地で建て替え	②　隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし、 布佐南小は施設規模を適正化し現在地で建て替え	③　３校を一体型小中一貫校へ
児童生徒	1 学習環境	○小学校においては少人数でのゆとりある環境で学ぶことができる。 ○個別最適な学びに向けた、きめ細かな指導がしやすい。 ▲小学校においては少人数のため、学習内容によっては十分な学習活動が行えない場合がある。 ▲各学校において、教員の少なさから、学習活動が制限される場合がある。 ▲学級間の相互啓発や切磋琢磨がしにくい。	○小学校においては少人数でのゆとりある環境で学ぶことができる。 ○９年間の見通しをもっての学習がしやすくなる。 ○小学校段階から教科担任制による専門性の高い学習をすることができる。 ▲小学校においては少人数のため、学習の内容によっては十分な学習活動が行えない場合がある。 ▲布佐布佐南小学校においては、教員の少なさから、学習活動が制限される場合がある。	○９年間の見通しをもって学習しやすくなる。 ○小学校段階から教科担任制による専門性の高い学習をすることができる。 ○小学校段階の児童数が増え、学び合ったり競い合ったりする環境になり、学力の向上につながる。 ○4-3-2制などの特色ある教育課程を組めるようになる。 ▲校庭や体育館、特別教室の共用に調整が必要になる。 **→我孫子市での小中一貫教育は布佐地区が先駆けとなっている。そのような小中一貫教育という観点から見たときに、一体型の校舎というのは理想的だと思う。**
	2 学習内容	○布佐地区の中でもより住環境に最適な地域学習ができる。 ○小学校区・中学校区の範囲が変わらず、従来の環境の中で地域学習ができる。 ▲人数の関係から、学習内容が限定されてしまう場合がある。 ▲中学校段階で、「地域」理解に差があるため、共通の土台をもって学習することが難しい。	○９年間をとおした異学年交流・合同学習が行いやすくなる。 ○小学校区・中学校区の範囲が変わらず、従来の環境の中で地域学習ができる。 ▲中学校段階で、「地域」理解に差があるため、共通の土台をもって学習することが難しい。	○９年間をとおした異学年交流・合同学習が行いやすくなる。 ○小学校段階において多様な児童の考えの交流から学びが深まり、学習内容が充実する。 ○地域について学習するときに、多様な環境の内容を持ち寄って比較検討することができ、学びが深まる。 ○中学校段階で、「地域」理解に差がなく、共通の土台をもって学習することができる。
	3 生活環境	○少人数のためゆとりある学校生活を送ることができる。 ○異学年交流がしやすい。 ▲清掃分担や、委員会活動など、余裕のない人数の中で実施しなければならない。 ▲部活動数が少ない。	○清掃分担や委員会活動など、９年間をとおした分担や縦割り活動ができる。 ○９年間をとおした生活ルールの中で生活を送ることができ、中学校進学段階でのギャップが少ない。 ○▲布佐南小学校にとっては、新鮮な生活環境で中学校生活をスタートできるが、中学校進学時に生活のルールなどへの適応に課題が出る場合がある。	○小学校段階においては、より多様な仲間と生活を送ることにより、一層の生活の充実を図ることができる。 ○清掃分担や委員会活動など、９年間をとおした分担や縦割り活動ができる。 ○９年間をとおした生活ルールの中で生活を送ることができ、中学校進学段階でのギャップが少ない。 ○部活動数を増やせる。 **→中学校段階の人数が変わらないため部活数は増えないのではないかと考える。** **→一体化により、中学生と同じ部活に小学校高学年から参加でき、活動が活発になる。** ▲中学校進学時の環境変化による、気持ちの切り替えや新生活への期待感が薄れる可能性がある。 ▲９年間同一施設での生活から、高校進学にあたっての新生活への適応に課題が出る場合がある。
	4 人間関係	○小学校においては、登下校のグルーピングや放課後に過ごす友達を作りやすい。 ○中学校進学時に新しい友達との出会いがあり、新しい人間関係を築くことができる。 ▲小学校においては単学級であるため、クラス替えができず、人間関係でつまづいたときの逃げ場がない。	○小学校と中学校の縦の関わりが持てる。 ○中学校進学時に新しい友達との出会いがあり、新しい人間関係を築くことができる。 **→過去にも布中進学時に両校の出身者同士であまり打ち解けない事例があった。南小からみると途中からの合流はメリットとならない場合もある。** ▲布佐南小学校から布佐中学校へ進学した場合、布佐小学校布佐中学校の縦の関係のできあがった中に入ることになる。	○小学校段階においては、人数が増えるので、たくさんの友達が作れる。 ○クラス替えにより人間関係を更新できる。 ○小学校と中学校の縦の関わりが持てる。 ○９年間の関わりの中で、安心できる関係を築くことができる。 ▲人間関係の固定化が長く続くことによる弊害が生じる可能性がある。 **→小学校段階から２クラスになり、９年間の人間関係の固定化は改善されうる。**
	5 学校行事	○各学校の実態に応じて、柔軟に設定することができる。 ○緊急時に混雑しにくい。 ▲小学校においては、少人数での実施となり、行事によっては、充実に乏しくなる場合もある。 ▲中学校区合同で行事を行う場合は、日程調整や教育課程の編成上、多くを行うことは難しい。	○小中学校合同で行事を開催することが容易になる。 ○９年間のうち、実施学年の区切りを工夫した行事を行うことも実現しやすくなる。 ▲小学校段階においては、少人数での実施となり、行事によっては、充実に乏しくなる場合もある。 ▲中学校区合同で行事を行う場合は、日程調整や教育課程の編成上、多くを行うことは難しい。	○在籍児童数が多くなることにより、小学校段階においても、小中学校合同で実施する場合にも、これまでより大きな規模で行事を行いやすくなる。 ○小中学校合同で行事を開催することが容易になる。 ○９年間のうち、実施学年の区切りを工夫した行事を行うことも実現しやすくなる。 **→行事の際に保護者駐車場等の確保をできるようにしてほしい。** **→運動会で家族毎のスペースが取れるようにしてほしい。**

【布佐中学校区の在り方検討委員会　資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて
〈児童生徒〉

視点	項目	①　３校とも施設規模を適正化し現在地で建て替え	②　隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし、 布佐南小は施設規模を適正化し現在地で建て替え	③　３校を一体型小中一貫校へ
児童生徒	6 通学距離	○小学校段階においては、通学距離が均等化されている。	○小学校段階においては、通学距離が均等化されている。	▲小学校段階においては、通学距離が長くなり登下校に負担がかかる場合がある。 （例：南小学区では南新木２丁目端から、南小まで1.8km→布佐小まで2.9kmになる） **→スクールバスの運行も考えられるので、デメリットにはならないと思う。** ▲小学校段階においては、放課後の交友関係が居住地区の友人に限られてしまう。 **→居住地区だけでなく、布佐全域で交流が深まると思う。** **→南新木地区は新木小も近いため「布小の位置に通うなら新木小へ通う」という意見が出る可能性を懸念している。** **→南小区から布小へ通うとしても徒歩圏内であり、バスは不要ではないかと考える。** **→低学年の通学距離や朝夕の部活動時の運行など検討すべきである。**
	7 通学手段	○小学校は従来通りの徒歩での通学が主となる。	○従来通りの徒歩での通学が主となる。	▲小学校段階の布佐南小学区在住児童については、検討が必要。 ・スクールバスの場合 　下校時間の制約・バス発着場の確保 ・自転車利用の場合 　利用可能とする学年の検討 **→スクールバス利用を検討する。**
	8 交通安全	○小学校が確認・対応する危険エリアは従来通りである。	○小学校が確認・対応する危険エリアは従来通りである。	○登下校の見守りについて、布佐地域全体で連携して行うことができる。 ○小学校段階から、布佐地域全体の危険エリアの確認・共有ができる。 ▲児童の行動範囲拡大に伴って危険が増大する恐れがある。 **→地域の連携を図りながら危険な部分を減らすことができるのではないかと思う。** **→布佐地区は、地域での見守りやパトロールを手厚く行っているため、一体化後も地域の協力を得られると思う。**
	9 地域理解	○小学校段階においては、小学校区及び児童の居住地を中心とした範囲において、理解を進める。 ▲布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことが難しい。	○小学校段階においては、小学校区及び児童の居住地を中心とした範囲において、理解を進める。 ▲布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことが難しい。 **→これまでの小中一貫教育の成果もあり、子どもたちは布佐地区全体を私たちの地域とする雰囲気が醸成できている。また、地域においても3校合同での学校運営協議会会議や地域学校協働活動、各自治会の防犯パトロールなどを行っており、布佐地区全体を一つの地域として認識している。**	○布佐中学校区全体を「私たちの地域」として認識し、地域学習や地域交流を行うことができる。 ▲児童の発達段階を考慮し、地域理解の範囲を広げていく必要がある。 **→これまでの小中一貫教育の成果もあり、子どもたちは布佐地区全体を私たちの地域とする雰囲気が醸成できている。また、地域においても3校合同での学校運営協議会会議や地域学校協働活動、各自治会の防犯パトロールなどを行っており、布佐地区全体を一つの地域として認識している。**
	10 地域の一員としての自覚の醸成	▲地域の範囲が、各学校区や自身の生活範囲にとどまりやすく、中学校に進学しても、布佐地域全体を地域ととらえての所属意識が醸成しにくい。	▲地域の範囲が、各学校区や自身の生活範囲にとどまりやすく、中学校に進学しても、布佐地域全体を地域ととらえての所属意識が醸成しにくい。	○自身の生活範囲から離れた布佐地域や地域行事にも小学校段階から参加することで、布佐地域全体の一員としての自覚を醸成しやすくなる。 ▲地域の捉え方が大きくなり、自分事として捉えにくい（自分の住んでいる所からは遠い場所の話だと思う）場面が出てくることがあるかもしれない。 **→一貫校になった場合であれば、子どもたちはその学校の学区のことを色々と考えながら動くので、他人事にはならないと感じる。** **布佐中学校区では問題ないと感じるためデメリットから削除してよい。**

※　5 学校行事：入学式、卒業式、運動会等、8　交通安全：通学路を含む
※　メリット：○、　デメリット：▲、　→：会議内での追加意見　とする

【布佐中学校区の在り方検討委員会　資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて
〈教職員〉

視点	項目	①　３校とも規模を適正化し現在地で建て替え	②　隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現在地で建て替え	③　３校を一体型小中一貫校へ
教職員	1 学習指導	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、個別最適な学びにむけた指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ▲小学校段階においては単学級となるため、一人の教員が担当する教科・領域が多く、授業準備等負担がかかる。 ▲教員の人数が少なく、学級数も少ないため、日常的に学年のことや教科のことで教員間で相談したり、一緒にまたは分担して学習指導を行ったりすることが難しい。（教員自身の指導力向上にもつながりにくい）	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、個別最適な学びにむけた指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ○一体型小中学校においては、中学校教員による教科担任制の導入、ティーム・ティーチングによる授業の実施を行うことができる。 ○一体型小中学校においては、小学校教員と中学校教員の合同教科研修や指導方法の工夫などが図りやすい。 ○一体型小中学校においては、９年間の児童生徒の学習実態に応じて、学習内容や指導法を工夫することで、学力向上につなげやすい。 ▲布佐南小においては、一人の教員が担当する教科・領域が多く、授業準備等負担がかかる。 ▲布佐南小においては、学習指導において中学校との連携が難しい。	○中学校教員による教科担任制の導入、ティーム・ティーチングによる授業の実施を行うことができる。 ○小学校教員と中学校教員の合同教科研修や指導方法の工夫などが図りやすい。 ○９年間の児童生徒の学習実態に応じて、学習内容や指導法を工夫することで、学力向上につなげやすい。 **→文科省も義務教育9年間を繋いでいくことを推奨している。**
	2 生徒指導	○小学校段階においては、担任一人あたりが担当する児童数が少なく、一人一人に合った指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ▲教員の人数が少ないため、日常的に多数の目で児童生徒を見守ることが難しい。 ▲中学校段階において、十分な生徒理解のもと適切な指導に至るまで時間が必要となる。	○小学校段階においては、担任一人当たりが担当する児童数が少なく、一人ひとりに合った指導が実現しやすい。（一人一人に丁寧に指導することができる） ○一体型小中学校においては、児童生徒を見守る目が増える。 ○一体型小中学校においては、９年間をとおした児童生徒への継続的な生徒指導を行いやすい。 ○一体型小中学校においては、小中学校教員に、発達段階に応じた指導力の向上を期待することができる。 ▲布佐南小学校においては、教員の人数が少ないため、日常的に多数の目で児童生徒を見守ることが難しい。 ▲中学校段階において、南小からの進学者については十分な生徒理解のもと適切な指導に至るまで時間が必要となる。	○児童生徒を見守る目が増える。 ○９年間をとおした児童生徒への継続的な生徒指導を行いやすい。 ○小中学校教員に、発達段階に応じた指導力の向上を期待することができる。 ○地域でのトラブルに対応できる職員が増える。地域で良くない行動をする子どもが現れた時、小中関係なく教職員が声をかけやすくなる。 ▲小学校段階での学区が広くなり、児童の行動範囲拡大にともなう生徒指導上のトラブルが予想される。 **→学区が広がっても地域はしっかりと子どもたちを見守っている。地域みんなでサポートし、デメリットではなくしていきたい。** **→小中一貫校になると、小学生の面倒を中学生が見るので、そういう面での生徒指導の良さがある。** **→布佐地区はすでに3校合同での学校運営協議会等で色々な形で情報を共有し、同じ歩調で歩んでおり、デメリットも克服できると思う。**
	3 児童生徒理解	○小学校段階においては、在籍児童数が少ないため、教員間での共通理解が進みやすい。	○布佐南小学校においては、在籍児童数が少ないため、教員間での共通理解が進みやすい。 ○一体型小中学校においては、小中学校の教員による児童生徒の理解が進み、９年間にわたって児童生徒の成長を共有することができる。 ○一体型小中学校においては、児童生徒に関わる教員が多くなることで、教職員が異動しても、児童生徒への理解が薄れる可能性は少なくなる。	○小中学校の教員による児童生徒の理解が進み、９年間にわたって児童生徒の成長を共有することができる。 ○児童生徒に関わる教員が多くなることで、教職員が異動しても、児童生徒への理解が薄れる可能性は少なくなる。 **→小学校高学年から中学生にかけての心身が大きく成長・変化する期間に教員全員で見守り、支えることができるのは一体型のメリットだと思う。**
	4 児童生徒支援	○小規模校のため全職員が自校の全児童生徒を把握でき、個別最適な支援を行いやすい。 **→学校規模が小さいと友人・教職員との関係が固まってしまい、頼る相手が見つからないという子も出てくるのではないかと思う。**	○一体型小中学校においては、学習支援や生活支援の充実が図りやすくなる。 ○一体型小中学校においては、９年間を見通した継続的な支援が行いやすくなる。 ○一体型小中学校においては、９年間利用できる個別支援教室等の設置が可能。 **→南小が小規模で教職員が少ないままなのはデメリットではないかと思う。** **→学校規模が小さいと友人・教職員との関係が固まってしまい、頼る相手が見つからないという子も出てくると思う。**	○学習支援や生活支援の充実が図りやすくなる。 ○９年間を見通した継続的な支援が行いやすくなる。 ○９年間利用できる個別支援教室等の設置が可能。
	5 教職員交流	○３校合同研修等により、教職員の交流が可能。 ▲各校間の交流には、日程調整や時間の確保に課題があり、中学校区の教職員全体の関係を深めることは難しい。 **→若い先生が授業を見に行こうと思っても、見に行く相手がいないということが、小さい学校のデメリットと思う。**	○２校（３校）合同研修会等により、教職員の交流が可能。 ○一体型小中学校においては、研修等の日程調整や時間の確保がしやすい。 ○一体型小中学校においては、日常的な交流が可能となり、授業参観や協力、意見交換も行いやすい。 ▲布佐南小学校教職員との交流には、日程調整や時間の確保に課題があり、中学校区の教職員全体の関係を深めることは難しい。	○研修等の日程調整や時間の確保がしやすい。 ○日常的な交流が可能となり、授業参観や協力、意見交換も行いやすい。
	6 教職員配置数			

※　1 学習指導：通知票を含む　　5 教職員交流：職員室の状況を含む
※　メリット：○、　デメリット：▲、　→：会議内での追加意見　とする

【布佐中学校区の在り方検討委員会　資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて
〈保護者・地域〉

視点	項目	①　３校とも規模を適正化し現在地で建て替え	②　隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現在地で建て替え	③　３校を一体型小中一貫校へ
保護者	1 保護者組織	→現状の規模では、布佐小は母数が少ないためPTA組織の担い手が少ないという問題がある。PTA役員を6年間で1度はお願いする状況で、人によってはそれを負担と感じる方もいる。 →南小も同じように、何かしらの係を行う。役員とクラス委員に関しては、6年間で必ずどちらかは行う流れである。 →まんべんなく役員を行うことになり、単学級だと厳しい実感はある。	→南小だけ残る場合は、①と同じような問題点が残ると思う。 →保護者団体も母数が増えればいろいろな活動ができる。	→他校との親交を踏まえて話をすると母数が増えればいろいろな活動ができる。 →小中一貫校となったときに、PTA、学連協、学校運営協議会等の組織について今後検討が必要である。
	2 放課後保育			→新しく3校一体型が出来たなら、放課後保育をどう対応するのか要検討。最初から民営化がスタートする等、今後検討が必要である。 →学童保育について、一体化して学童も1か所なのか、各地区に分室を置くのかは未定。学校まで迎えに行くことについては、今までよりは距離が遠くなるという問題は出てくると思う。
	3 地域コミュニティー			
地域	1 地域コミュニティー			→地域を活かした特色ある科目や授業をアピールして、他学区からも布佐に来たいと思える構想を作っていくべきである。 →布佐地区では、3校の学校運営協議会の会長と地域学校協働活動推進員が定期的に情報交換をしており、他の地区よりも先行していると思う。
	2 地域交流	→日常から学校と地域住民が繋がっている。 →小さい学校の運動会だと種目を作るのも大変ということを聞いたことがある。		→各小区と地域団体は密接に連携しているため、一体型となった際に布小区と南小区の地域同士の連携が心配に思うことがある。 →学校が一つとなることで、地域も布佐地区全体でひとまとまりという認識で活動できるようになるのではないかと思う。 →3校一体となった場合は、運動会の内容も充実して、見に来る方々も増えることも考えられる。
	3 防災	→現在、南小は避難場所になっている。3校建替えの場合は、そのままのため南小へ避難すれば良いが、仮に③となった場合、避難場所の建物自体は南小のまま残るのか検討してほしい。		→南小区の場合、一体化後の避難場所はどうなるのか。通うのは布小(一体化校)だが、避難時に距離が近いのは新木小という状況も考えられる。

※　1 保護者組織とはPTA等を指す
※　メリット：〇、　デメリット：▲、　→：会議内での追加意見　とする

【布佐中学校区の在り方検討委員会　資料】検討視点と施設形態のメリットデメリットについて
〈その他〉

視点	項目	①　３校とも規模を適正化し現在地で建て替え	②　隣接する布佐小と布佐中を一体型小中一貫校とし布佐南小は規模を適正化し現在地で建て替え	③　３校を一体型小中一貫校へ
その他	1 教育課程等	・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育９年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。 ・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。 **【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】** 〇上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。 **【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】** ・義務教育９年間の学校教育目標を設定し、より一層９年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 〇学年段階の区切りを小中学校のような６－３制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して４－３－２制、５－４制等に工夫することができる。 〇小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 ▲施設が離れているため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などの負担が大きい。 ▲施設が離れているため、教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえにくく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことが難しい。	・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育９年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。 ・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。 **【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】** 〇上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。 **【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】** ・義務教育９年間の学校教育目標を設定し、より一層９年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 〇学年段階の区切りを小中学校のような６－３制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して４－３－２制、５－４制等に工夫することができる。 〇小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 ▲施設が離れているため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などの負担が大きい。 ▲施設が離れているため、教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえにくく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことが難しい。	・我孫子市では、小中一貫教育として義務教育９年間をつなぐ市共通のカリキュラム「Abi☆小中一貫カリキュラム」を各学校の教育課程に位置付けて実施している。 ・布佐中学校区では、「布佐中学校区小中一貫教育グランドデザイン」（基本方針）のもとに「布佐カリキュラム」を実施し、布佐地域の特性を生かした小中一貫教育を実施している。 **【学校種が従来の「小学校」「中学校」の場合】** 〇上記に加えて、これまでどおり各小中学校において児童生徒の実態や、各学校の学校教育目標にもとづき、柔軟に教育課程の編成・見直しができる。 **【学校種が「義務教育学校」「併設型小中一貫校」となる場合】** ・義務教育９年間の学校教育目標を設定し、より一層９年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施できる。 〇学年段階の区切りを小中学校のような６－３制のほか、児童生徒の発達段階を考慮して４－３－２制、５－４制等に工夫することができる。 〇小中学校を一貫する独自の教科等（「ふるさと科」「防災科」など）を設置することができる。 〇同一施設のため、教育課程の編成にあたって協議するための日程調整や、時間の確保などがしやすい。 〇教育課程の実施にあたって、その成果や課題が学校全体でとらえやすく、また年度途中の見直し等も柔軟に行うことができる。 **→中学校相当の子どもたちが下級生（小学校段階）の子どもたちと一緒に学ぶことで、思いやりの心を育む、下級生の面倒を見るようになるなどにより学校教育が充実する。**
	2 児童生徒数推計			**→小規模特認校（特色あるカリキュラムを実施し、市内全域から入学希望者を認める制度）としてはどうかと思う。**
	3 施設等コスト面			**→新校舎を建設する場合のスケジュールについては、今後検討が必要である。** **→現在の立地に一体型新校舎を建設する場合、その間の学校生活について検討が必要である。** **→既存の施設をいかす案として、小学校2校を一体化にする案を提案したい。** **→→小中一貫教育推進の観点から、一体化するなら中学校を含めて考える必要があるため、小学校2校のみは検討していない。**
	4 校外学習等時のバスの発着場	〇南小は敷地に入れる。 ▲布佐小は356号沿いの華蓮厨房の駐車場を借りている。 ▲布佐中は和田前公園の通りに駐車している。	〇南小は敷地に入れる。 〇一体型小中一貫校建設時は、バスの発着も加味した計画ができる。 ▲356号沿いの華蓮厨房、和田前公園の通りのいずれかの駐車となる。	〇一体型小中一貫校建設時は、バスの発着も加味した計画ができる。 **→スクールバス運行時は学校敷地内で乗降できるよう、安全第一の校舎・学校施設設計を行ってほしい。**
	5 校舎の立地条件			**スクールバスを想定したときの交通の安全面を考慮してほしい。** **校舎は敷地における高低差がなく、フラットな設計としてほしい（車椅子の児童や、保護者等を考えた場合）。** **校舎建設時には、水害対策、ハザードマップ等を考慮した方が良い。**
	6 その他			**国道356号線から布小に入る交差点の拡幅工事、国道356号の歩道拡幅工事の進捗状況はどのようか確認がしたい。** **学校を考えるには、地域のことや防災なども考える必要があり、少し先のことを見据えながら、子どもたちの将来のために方向性を見いだしたい。**

※　1 教育課程等では4-3-2制等を含む
※　メリット：〇、　デメリット：▲、　→：会議内での追加意見　とする

図 1

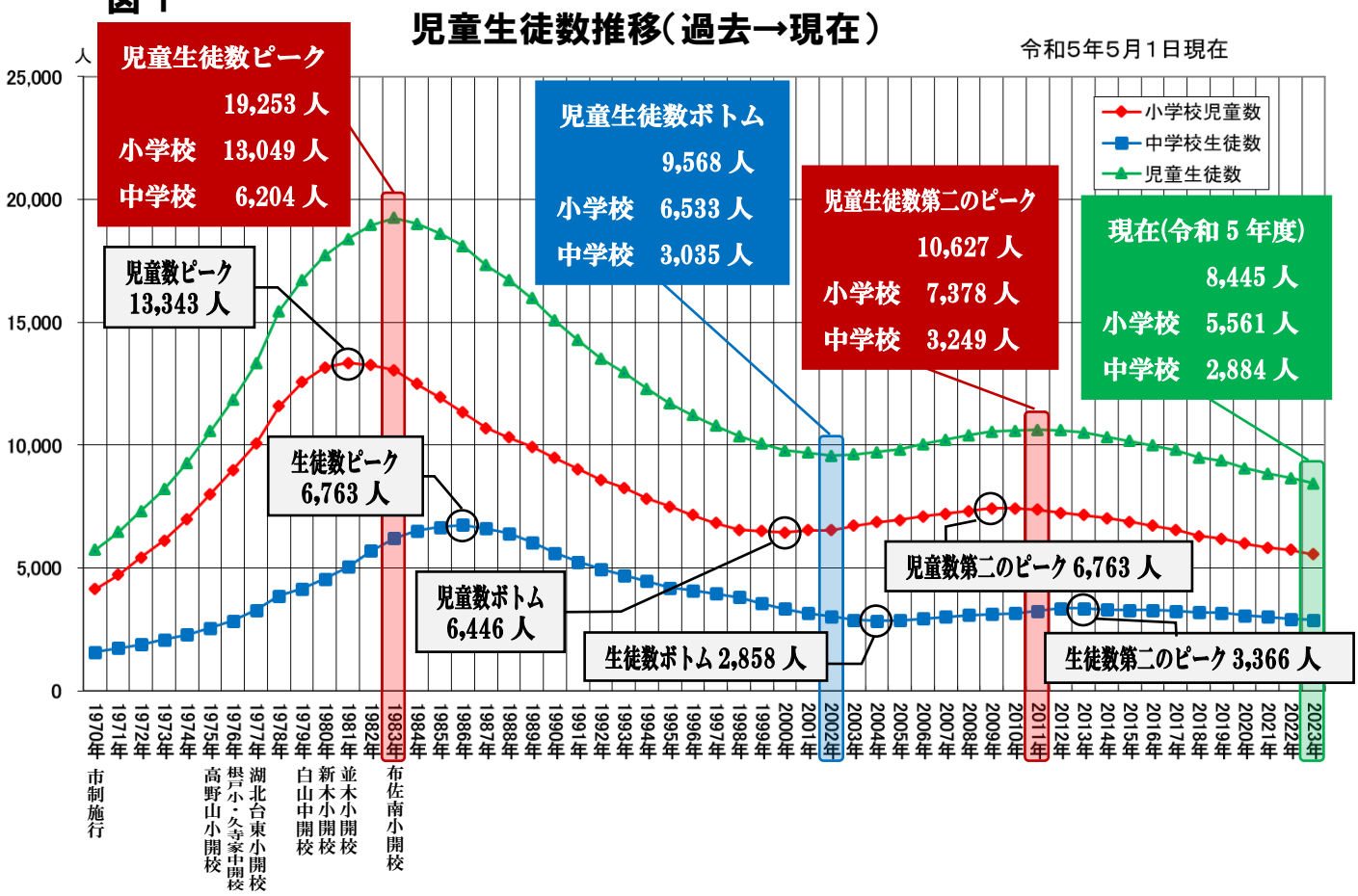
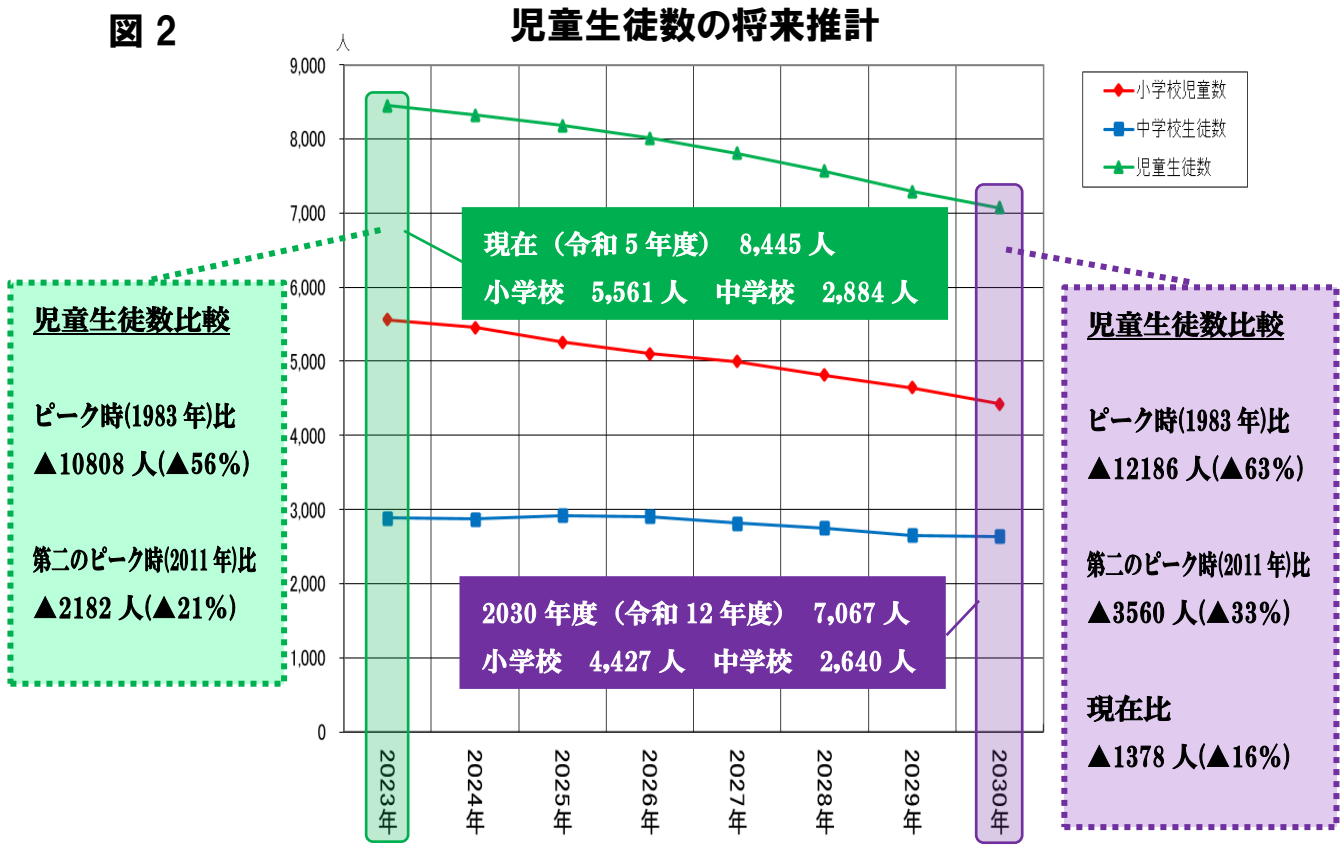

児童生徒数推移（過去→現在）
令和5年5月1日現在
人
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
小学校児童数
中学校生徒数
児童生徒数
児童生徒数ピーク
19,253 人
小学校 13,049 人
中学校 6,204 人
児童生徒数ボトム
9,568 人
小学校 6,533 人
中学校 3,035 人
児童生徒数第二のピーク
10,627 人
小学校 7,378 人
中学校 3,249 人
現在(令和 5 年度)
8,445 人
小学校 5,561 人
中学校 2,884 人
児童数ピーク
13,343 人
生徒数ピーク
6,763 人
児童数ボトム
6,446 人
生徒数ボトム 2,858 人
児童数第二のピーク 6,763 人
生徒数第二のピーク 3,366 人
1970年 市制施行
1975年 高野山小開校
1976年 椚戸小・久寺家中開校
1977年 湖北台東小開校
1979年 白山中開校
1980年 新木小開校
1981年 並木小開校
1983年 布佐南小開校
2002年
2011年
2023年

図 2


児童生徒数の将来推計
人
9,000
8,000
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0
小学校児童数
中学校生徒数
児童生徒数
現在（令和 5 年度） 8,445 人
小学校 5,561 人 中学校 2,884 人
2030 年度（令和 12 年度） 7,067 人
小学校 4,427 人 中学校 2,640 人
2023年
2024年
2025年
2026年
2027年
2028年
2029年
2030年
児童生徒数比較
ピーク時(1983 年)比
▲10808 人(▲56%)
第二のピーク時(2011 年)比
▲2182 人(▲21%)
児童生徒数比較
ピーク時(1983 年)比
▲12186 人(▲63%)
第二のピーク時(2011 年)比
▲3560 人(▲33%)
現在比
▲1378 人(▲16%)

令和5年度　布佐中学校区　小中一貫教育グランドデザイン

「我孫子市の小中一貫教育」

我孫子市の未来を拓く　心輝く教育～9年間の連続した学びと小中の協働を通して～

・・・コミュニケーション力　・　チャレンジ力・　豊かな心・・・

生きる力の育成

主体的・対話的で深い学び
社会に開かれた教育課程

≪我孫子市小中一貫教育校が目指す子ども像≫
○「ふるさと我孫子」を愛し、誇りに思う子ども(郷土愛)
○確かな学力を身につけ、夢を持ちチャレンジする子ども(未来を拓く力)
○自分に自信を持ち、自他を大切にする子ども(輝く心)

布佐中学校
自ら学び、共によりよく生きる生徒の育成

布佐小学校
心豊かにたくましく生きる児童の育成

布佐南小学校
心豊かで実践力のある子

我孫子市教育委員会

地域連携・地域の教育力

布佐中区・各校地域学校協働活動本部

《布佐中区小中一貫教育校がめざす15歳の理想の生徒像≫
Ⅰ．よりよい生活・学習のあり方を求め、自ら考え、 的確に判断しながら主体的に行動 (表現)できる生徒
Ⅱ．互いの価値観を認め、仲間と学び合い支え合いながら、(自分ではない)誰かのために貢献できる生徒
＜後期＞理想の生徒像（15歳の姿）に向けて、さらなる学習と生活の充実・発展を図るとともに、将来への目標や進路実現に向けた能力の伸長に努める。
＜中期＞目標の実現に向かう自主的な生活態度を育成し、「学びの充実」と「心づくりの充実」を通して意欲の向上と個性や共生的な態度の伸長に努める。
＜初期・前期＞きめ細かな指導、繰り返しの指導により「学びの基礎」と「心づくりの基礎」を確実に身につけさせる。

環境でつなぐ
＜後期＞
・自学自習の態度育成
・自己実現
＜中期＞
・自己の目標づくり
・教育相談の充実
＜初期・前期＞
・基本的学習習慣の確立
・基本的生活習慣の確立
・家庭学習の習慣化

学習でつなぐ
＜後期＞
・活動と協同のある授業推進
・キャリア教育の充実
・地域貢献活動の充実
・生涯学習の基礎づくり
＜中期＞
・学び方の理解と意欲の高揚
・「学び合い」学習の推進
・道徳教育の充実
・課題解決力の育成
＜初期・前期＞
・基礎基本の定着

人でつなぐ
＜後期＞
・コミュニケーション能力の向上
・リーダー性の発揮
＜中期＞
・自主的、自律的な態度の育成
・小中連携活動
＜初期・前期＞
・社会性の育成
・幼保小の連携

小中の接続と教科等横断的な視点からの実践

生活・学習指導もおける布佐スタンダードの確立
Abi-ICT、Basic
書く・話す・聞く力

・小中学校を通した「主体的・対話的で深い学び」の授業
・「ふさカリキュラム」を柱とする小中一貫した総合学習
・主体性を育てる発達段階に応じた話し合い活動の推進
Abi-ふるさと、Abi-キャリア
Abi-道徳、Abi-English

6年生の中学校登校等、小小・小中連携

【児童生徒の実態】
・学習意欲はあるが、学習時間が短い
・思考し表現する力に課題がある
・仲間を大切にする
・地域の行事に参加し、地域の役に立ちたいという思いがある

＊後期：中1～3
＊中期：小5～6
＊前期：小3～4
＊初期：小1～2

小中一貫教育の推進

3校
運営委員会
・校長・教頭
・教務

プロジェクト部会
各校教務
担当校長
教頭

特別活動部会
研修部会
生徒指導部会

合同職員研修

特別支援教育部会
・確かな学力
・個のニーズに応じた支援

布佐中区・各校学校運営協議会

【保護者・地域の願い】

歴史とともに歩むまち・布佐

～ふるさと布佐を心に刻み、その歴史と文化を語り伝える人材を育てる～

「地域とともにある学校をめざし、学校・家庭・地域総ぐるみで布佐の子どもたちを育てる」

布佐中学校区
「学校の適正規模に係るアンケート」について

１　アンケート実施の目的

〇「施設一体型の小中一貫校」の設置についての意識を調査し、今後の布佐地区の学校の在り方について検討するための資料とする。

２　実施期間　　令和２年１２月７日～令和３年１月１５日

3　調査対象者

カテゴリー	内訳	1　布佐小	2　布佐南小	3　布佐中	計	
A　保護者（世帯）		152	139	165	456	
B　地域（世帯）	自治会長・班長	233	268		501	549
	新入生保護者	30	18		48	
C　学校関係者（人）	学校評議員 ボランティア等	15	22	25	62	
D　学校職員（人）	教員・教員以外	31	28	32	91	
	合計→	**461**	**475**	**222**	**1158**	

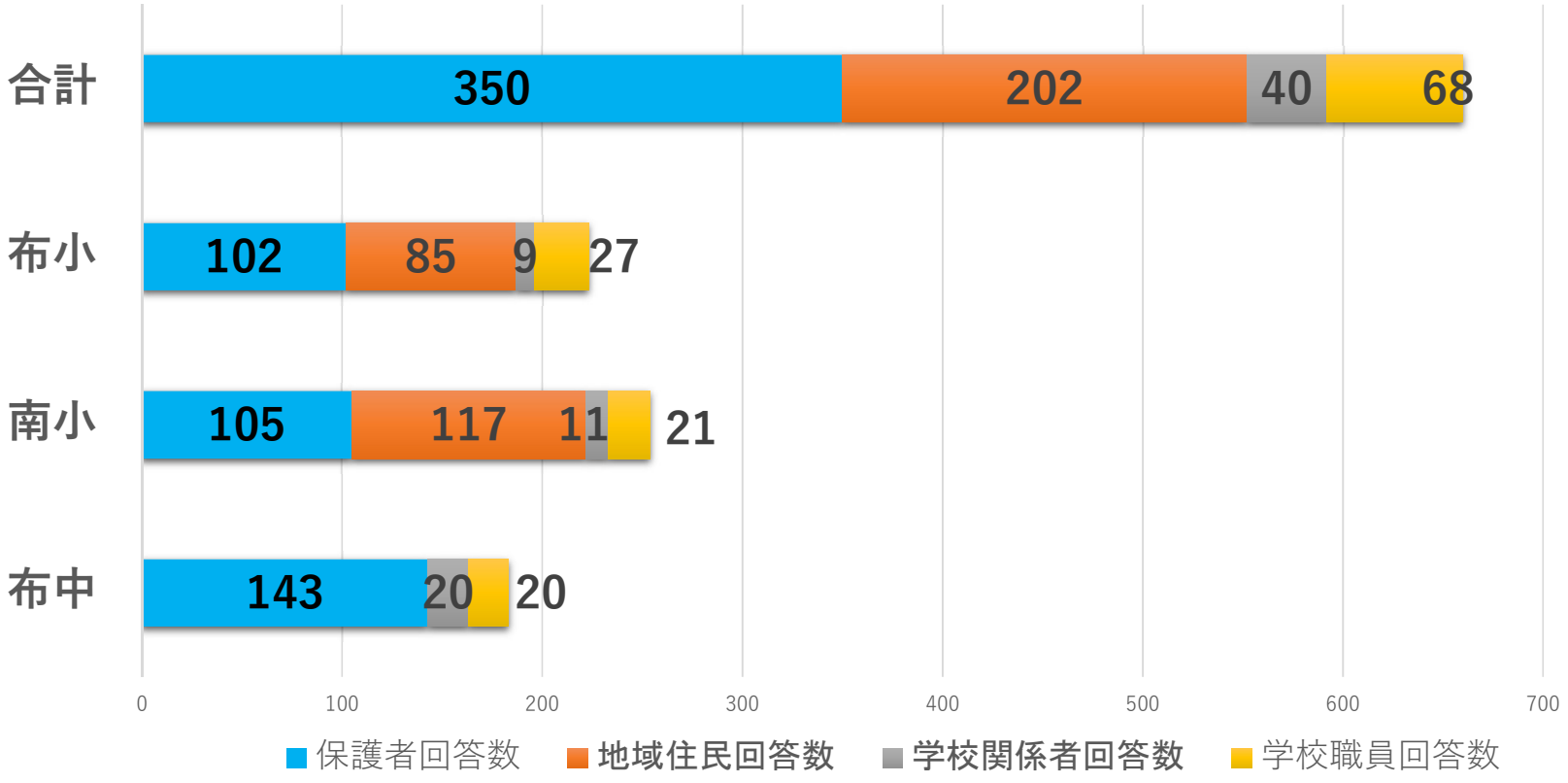
4　回答者数・回収率

	対象者数	回答者数	回収率
A　保護者（世帯）	456	350	76.8%
B　地域（世帯）	549	202	36.8%
C　学校関係者（人）	62	40	64.5%
D　学校職員（人）	91	68	74.7%
合計	1158	660	57.0%

5　アンケート結果

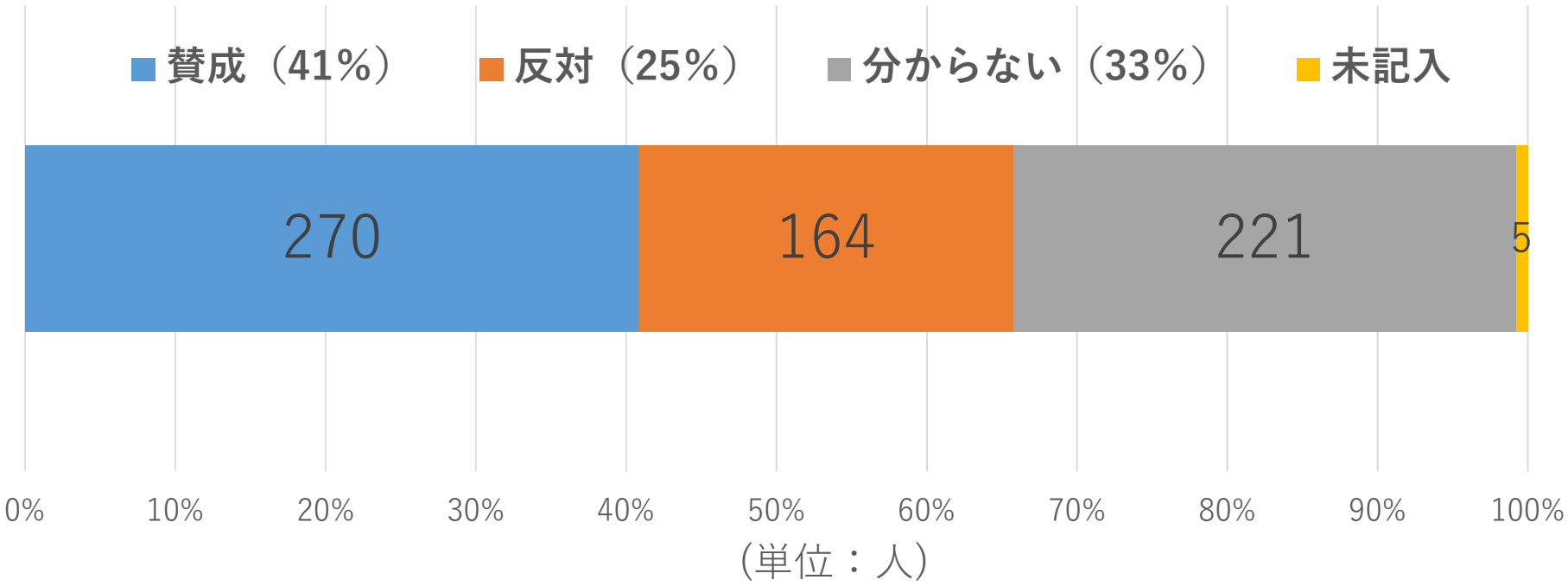
（１）　各校別の回答者数とその合計

単位：人

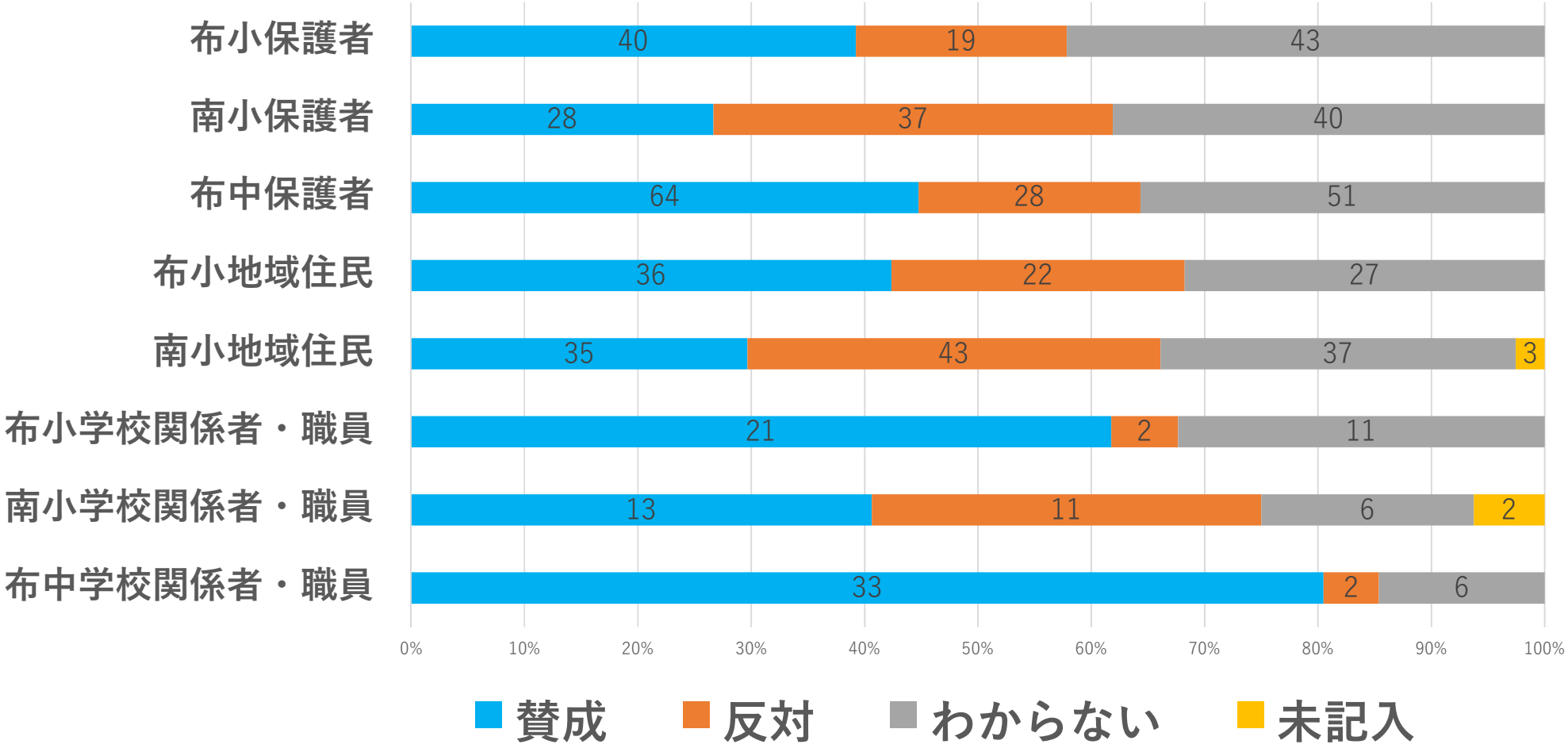


（２）アンケートの回答

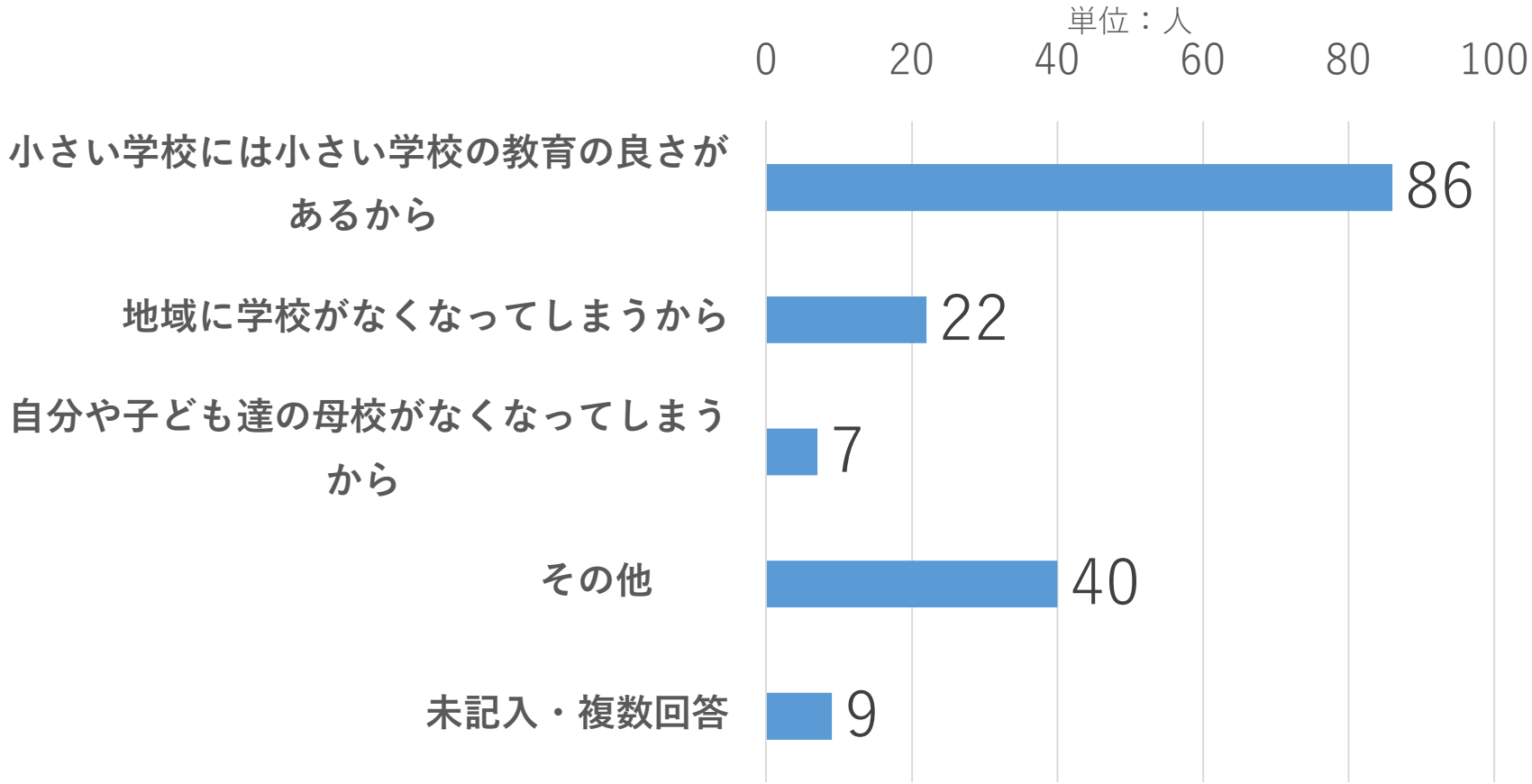
Ｑ２　施設一体型の小中一貫校の設置に対する考えで最も近いもの（１つ）



Ｑ２－③　カテゴリー・学校別　　単位：人



Ｑ３　一体型の小中一貫校の設置に反対する最大の理由（１つ）



※Ｑ３「その他」の記述抜粋

①デメリットでもあったように、小学生の最高学年としての活躍の場がなくなる。小学校と中学校では、子供の質も違うので（性の問題など）分けた方が良い。

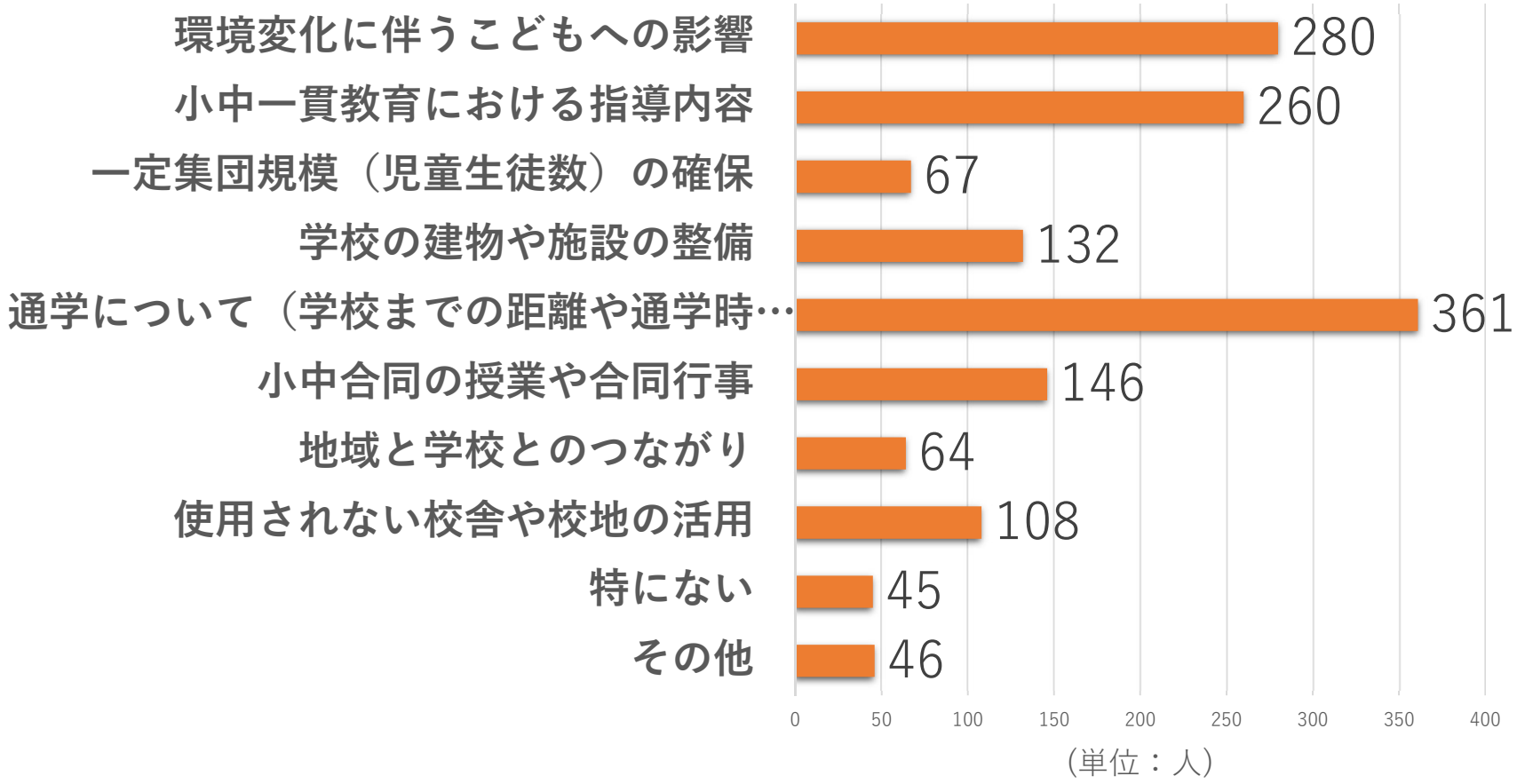
②小→中の環境変化も大人になっていく上での大切な経験だと思う。

③(布佐小は)通学路に歩道がないため、安全上の心配がある。学校へつながる道路が狭い。校舎が古く設備の老朽化が心配。

④人間関係に変化がなく、新鮮味がなくなるので、例えば、嫌な人とずっと一緒にいなければならないことが今までの形態よりもきついのでは？と心配になる。

⑤(一体型を始めたら)失敗が許されないこと、予算の問題。

Ｑ４　一体型の小中一貫校が設置された場合に心配な点（３つ以内）



※Ｑ４「その他」の記述抜粋

①いじめが小学校であった場合、最大９年間同じ環境、同じ集団でいることへの配慮と対策。

②中学生の小学生に対するいじめが心配。反抗期や精神面の問題がある中学生は小学生をいじめる可能性がある。先生たちや大人の目がちゃんと届くかどうか心配。

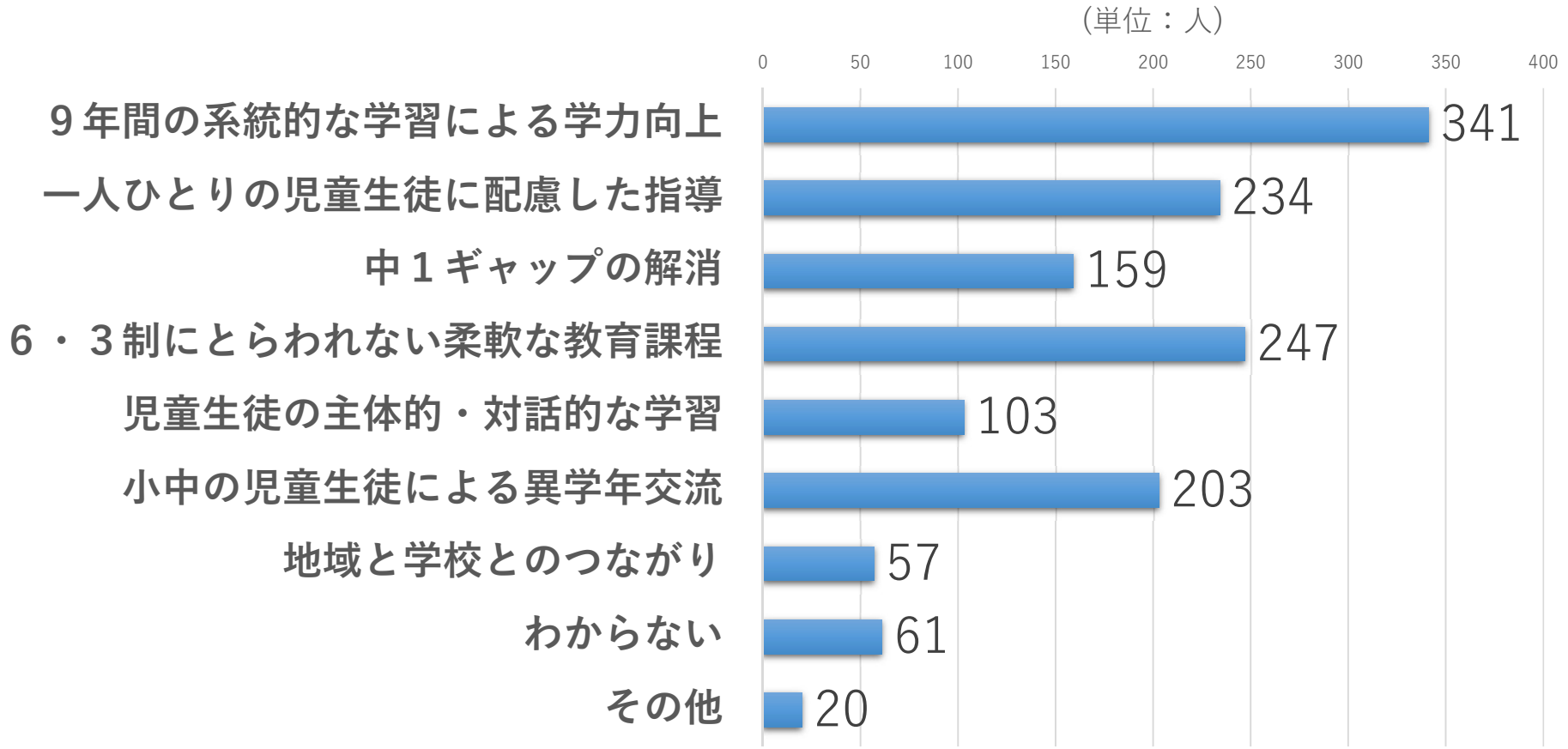
③人間関係が固定化され、リセットできる機会がない。

④平和台に増々子供がいなくなる。

⑤南新木地区のほとんどが新木小への学区変更を希望するのではないでしょうか。

⑥一体型の説明がないのでわかりません。

Ｑ５　一体型の小中一貫校に期待することは何か（３つ以内）



※Ｑ５「その他」の記述抜粋

①小中一貫モデル校としての学力向上への取組強化
（人材・カリキュラム・施設設備等）
②特色のある教育、安心安全な通学。
③部活動（特に運動能力）の向上。
④小学校合併による生徒数の増加。
⑤友達が増える。
⑥小中学校間の情報共有。
⑦一体型の説明がないのでわからない。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　ア-1

①固定概念にとらわれず、時代にあった取り組みを先駆的に行う学校をつくってほしい。

②小さい子と関わることで、学校で「思いやる心」などが育つような経験ができれば、大人になって、親になって、虐待などの悲しいニュースも聞かれなくなるのでは思います。

③1学年が２クラスになることでクラス替えがあり、人間関係がリセットされたり、交友関係が広がったり、クラスの団結も深まったりなどするなら良いと思います。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　ア-2

④小中一貫校になることにより、１学級しかない寂しさを改善することができる。、ぜひつくって、にぎやかな学校になってほしいと思っています。

⑤児童数が少なくなります。早く一体型にしてください。

⑥市内での先駆けとなるため、子どものために、ぜひ特色のある学校、充実した設備を整えてスタートしてください。

⑦一貫校の設置には良い点、悪い点があると思いますが、少子化が進む以上、やむを得ず必要なことだと思います。

通学の面で不便がないよう、特に小学生は学校側での送迎が必要になるのか、検討が必要かと思いました。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　イ-1

①布佐小学校の場所とありますが、新しく校舎を建てるのですか。布佐小は校舎や体育館でかなり高低差があり、校庭が狭いのが気になります。その点では布佐南小の方が良いのでは。通学路も整備されて安全。

②南小学区は通学距離が遠くなる為、通学方法が心配。バスの利用を可能にするなど通学手段を考えないと南新木の子供達がかわいそう。また、南小が無くなることで地域（平和台）の衰退につながっていくのではないか不安。

③小規模校で卒業した上の子達も「少人数でも良かった」とたいへん満足しています。一人ひとり丁寧に見てもらえるので、このままで良いと思います。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　イ-2

④話し合いや説明もないままに、アンケートに答えてほしいと言われても、どう考えて良いのか分からない。漠然と反対の気持ちがあるだけです。

⑤平和台地区から小学校がなくなることに関しては地域の活力を減退させることを危惧します。そもそも小中一貫（統廃合）に至る背景は何でしょう？予算でしょうか？　予算ありきで教育の在り方が問われる場合、小中一貫校の構想には反対です。

⑥とにかく場所が好きではありません。そちら(布佐小)に小学校を移した場合、南新木の子供は新木小に行くでしょう。

子供を何らかの理由で車で迎えに行く時、あの場所(布佐小)は不便だと思います。もう少し道を便利に広げてくれれば。暗い場所もあるし…。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　ウ-1

①賛成、反対、どちらにしても問題は残ります。子供達が取り残されないことを望みます。

②学力とは、どのような環境にいてもそこから学び取り、糧にする力だと思っている。子供自身が主体性を持って学ぶ意欲が発揮される環境を創造してほしい。

③先に小中一貫校になった学校がどうなっているのか。成功例を知りたい。

④施設一体型はいつ頃を目指していますか。現状を伝えて欲しい。

Ｑ６「自由記述」抜粋　　ウ-2

⑤行政側のスケールメリット（省コスト化）だけではなく、施設一体型のモデル校としての教員の人員や人材の確保、カリキュラムの強化による学力の向上と一人ひとりの子どもに配慮した指導等、子どもへのメリットのある統合を強く望みます。

⑥校庭の広さや小学校の築年数や設備などを踏まえて、今の規模のまま布佐小学校に全ての生徒を移すことについて、どのように想定しているのか。また、設備等新設するのであれば、それにかかるコストついての説明とそのコストに見合った教育面でのメリットがあるのか説明してほしい。

⑦布佐中学校は布佐小学校に比べ、特に体育館や校庭の広さ等、小学校より新しいが、使用されなくなった場合どのように活用されていくのか。